

今冬は、南北に長い日本列島の不思議再認識。気まぐれな上空の寒気が、かっ
てない生成流転。大寒の頃、とりわけ北海道で記録的ドカ雪。

道産子を驚かしたかと思いきや、反転して九州・四国まで雪景色にし、人々を
震えさせた。道に迷った旅人の如き冬将軍の振る舞い。

一方、関東地方はカラカラ天気。1月の東京の降水量は3.5mmで23年振りの
少雨。冬期の晴天日数も更新。南関東は独り置き去りの特異な西高東低の気圧配
置。冬の厳しさを体験しないまの立春。2月2日に11mmの慈雨。芽吹き始めて
きた樹木に生氣蘇る。2月といえば、寒気に身震いの冷雨だが、既に生暖かき春
呼ぶ雨で気持ちも身体も軽くなる。

冬景色を一変し、小学生のマフラー姿が消えたとい戸端会議の若き主婦達の声。

2月の頃の流行病・インフルエンザは、人間特有の感冒とっていたら、アジ
アを中心にニワトリに大流行。夥しい数が廃棄処分、外食産業・養鶏農家には、
存亡の危機。コイヘルペスの二の舞は断乎阻止。喜田北大教授によれば、シベリ
アからの渡り鳥・鴨のフンから鶏に感染したらしい。経路の究明と感染予防研究
の成果が切望される。

とても深刻な問題がある。カモが昨日・今日、摂取した餌が原因ではあるまい。
長年蓄積されてきた結果なら、現代の食と畜産業に関する全産業に亘る、複合汚染
の証明。

少し前、テレビでショッキングな報道。チベットの鳥葬の死体にハゲタカさえ
寄り付かなくなったという。化学物質による人体汚染の程度は、先進国の比では
ない軽度の国での事実。BSE問題で、またもや露呈するビジネス帝国の官民一
体、剥き出しの暴論・ゴリ押し。全頭検査を当然とする、全世界の懸命な努力や
切なる関係者の思いを嘲笑し、倣岸無礼。

昨今、我国農水省と厚労省の処置・対応策は筋が通り、久々に拍手喝采。

春近し。米国食糧政策に踊らされないWTOとFTA交渉の好機到来。真摯な
食糧外交で、存在を示し得る晴舞台。アジア各国との連携・信頼固めの独自外交
の成功を祈り、うららかな春の野で、安全・安心なおにぎりを思いっきり頼張
りたい。